

龍をめぐめる話

■タツとリュウ

今年辰年である。辰年の年賀状には龍の絵が多い。辰龍と考えられているのだ。タツとは「八雲立つ」と歌われるように、立つ、つまり下から立ち昇るさまをさす。それは龍巻の「タツ」にも通じる。家屋や人を吸い上げ、海水を巻き上げる旋風は、古代の人々にとって恐ろしいことこのうえなかったであろう。しかも、通った後には、大地に大きな蛇が通ったような跡が残る。だから大きな蛇のようなものの仕業にちがいないと考えられたのも無理はない。

そこで、竜巻龍という考えができたのだろう。それは日本だけではない。アメリカの有名なハリケーンは、フラカンというカリブ海の龍ドラゴンが起こすことからその名がついているし、アラビアや聖書の世界でも龍は雨と雲を呼び暴風を起こすとされている。このように龍は天気をつかさどるものとして考えられ、転じて龍に雨乞いをするという風習がおこったともいわれている。

■龍と竜

「リュウ」には「竜」という字もある。漢字は象形文字だから、両方をよく見比べるとその違いが分かる。竜という字、なんとなく蛇の雰囲気を感じていないだろうか。それに比べて龍の字は、私たちの思い描く龍の姿を伝えていないだろうか。

り。

類というわけにはいなくなり、字もやがて「龍」に変わっていく。だから中国の史書にも龍の動静が国務上の大事件としてたびたび出てくる。余談だが、三国志で有名な諸葛孔明も「伏龍」として非凡さが形容され、非凡だが無冠の人材をさして「臥龍」と呼ばれるのもこうした龍のオノライズ（権威を付けること）と関係が深いのだろう。

■「本草綱目」の龍

龍が権威付けに使われるようになると、そのイメージも現在私たちが思い描く姿にだいたい落ち着くことになる。中華そばの器に描かれていたあの姿である。明代の博物誌『本草綱目』には、次のように龍の姿を伝えている。

「龍の形に九似あり。頭は蛇に似る、角は鹿に似る、眼は鬼に似る、耳は牛に似る、項は蛇に似る、腹は蜃（大蛇のようなもの）に似る、爪は鷹に似る、掌は虎に似る、これな

さらに、龍の声は銅鑼のようだとか、気を吐いて雲をつくるとか、火と水を出すとか、喉の下に逆鱗がある（これは故事成語になっている）とか、卵生であるという生誕にまで触れている。おもしろいのは孵化のさせ方である。龍は卵を「思抱す」とある。思抱するとは、卵を産んだ親が卵ばかりを思いつめる力で、卵が隔たつたところにあっても孵化することができるといふのだ。その他に燕の肉を好んで食べるから燕の肉を食べた人は河を渡ることを避けるとか、鉄が嫌いだから水害を防ぐときには鉄を用いるのだとも書いてある。まるで龍と共生した時代があったように詳しい。

ちなみに龍が嫌いなもののひとつにムカデがある。そこで思い出していたいただきたいのが『三上山のムカデ』の話。猿蓑太が竜王に頼まれてムカデを退治する話である。どうりで竜ともあるものが退治を頼むわけである。

竜は龍の略字ではない。実は竜は古体字、つまり龍より古い文字なのである。中国では紀元前漢の時代に竜に雨乞いした記録が残っているし、紀元前二千年から四千年前にも竜を思わせる文様が発見されているくらい竜との関わりは古い。

「竜」のイメージが「龍」に統一されてくるのは漢の時代だといわれている。それまで、竜の形状は足や角や翼があったりなかったり、一定していない。かつて孔子は老子に出会い、竜を引き合いに出して「知るあたわず」と弟子にもらしたと伝えられている。孔子でもわからないもの、それが竜だったのだ。

しかし漢代の「史記」では、高祖劉邦は龍顔をもっているとき、武帝に至っては龍の子となっており、龍天子（皇帝）の象徴とされるようになってくる。こうなると蛇と同じ

■龍の一族

湖北時雨のシーズンに住む者には余り好まれないが、虹がかかりやすい季節でもある。この虹、どうして「虫」へんなのだろうか。虫というのは「まむし」のむし。だから爬虫類は昆虫でないのに虫へんがつく。龍も然り。龍族の中では龍（竜も含む）がナンバーワンで、それ以外は虫（へん）へんをつけるというわけである。

実は「虹」も龍の一族なのである。虹はオスで、必ず蛻というメスと一対になっている。中国では、虹と蛻が仲良く天に上るとき、雨と太陽とを呼び、美しい虹を作ると信じられていた。昔は虹のことを「虹蛻」と言ったが、そのうち色の薄い外側と考えられていた蛻の部分ごとれて、虹と呼ばれるようになったのである。

虹と同じく空中に妖しくゆれる蜃気楼も龍に関係がある。「蜃」というのが龍族なのであ



【蛟】

1 st. PLUS.彦根市中央町 7-47 (0749-23-4176)

COMME des GARÇONS
ISSEY MIYAKE MEN
PPCM
Y's
20471120
MASAKI MATSUSHIMA

2 nd.彦根市本町 夢楽橋キヤッスロード (0749-23-8003)

Y's for men
dezert
Jipijapa
SILVER'S INC.
株式会社 シルバース

龍の年 ④

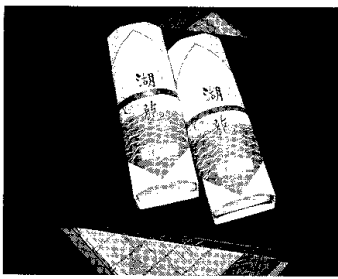
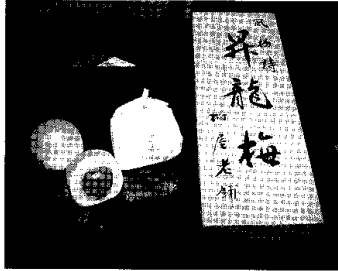
湖北の龍探し

湖北の龍を探し出せという至上命令のもと、みな取材班は体験版「ドラゴンクエスト」に散らばった。こころは、本誌スタッフの機動力の見せどころ。運氣上昇を祈願して、ごゆつくりと見あれ！

なお、この記事中に掲載できなかった龍は、34ページの「ボツネタ集」に収録。

■年の始めに「龍」を いただく

季節折々の和菓子を提供する柏屋老舗に「昇龍梅」というお菓子があつた。丸いおまんじゅうを二つに割ると、白あんが甘酸っぱい大きな赤い梅が出てくる。社長の北倉吉蔵さんが盆梅展の世話役をしていたとき、「昇龍梅」という名の梅を見つけたのがきっかけ。盆梅展を広めるために作つたお菓子を命名した。

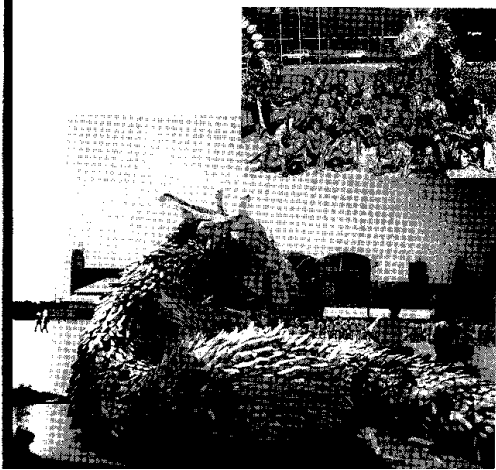


イスロールのようなお菓子もある。皮と羊羹の渦巻き状で、切り口はびわ湖の波のうねりを思わせる。こちらは、虎姫町にあつた西川酒造の地酒

「湖龍」から命名。お酒の方の湖龍は、地酒「太湖」を作る際、いくつもの蔵元が一緒に作り出す。他にも龍にちなんだ和菓子はありませんか」「わしが辰年やで、新年に出そうと思ってるものがあるんですけど、まだ試作段階や」とのこと。本誌が出る頃には店頭で並んでくれるだろう。辰年に「龍」のお菓子、いかがですか。

■長浜北高校三年六組の 立体アーチ

怪しい少年たちの後ろで吠えているのは、昨年九月九日、長浜北高の体育祭に出現したアルミ缶製の龍。三年間の集大成として取り組んだアーチのテーマは「リサイクル」。胴体の部分はトグロを巻いていて、なんと三千個以上の缶を使用したという。



夏休み返上で三週間ほどかけての力作だが、いちばん大変だったのは、材料となる缶集め。他のクラスの生徒の協力やごみ箱漁り(?)の甲斐あつて、立体アーチ部門第一位を勝ち取つた。

「缶を切り開いて裏返したウロコを一枚ずつ針金でとめていきました。アルミ缶を再利用するだけでなく、針金もアルミ製を使い、解体後は資源ゴミとして引き取ってもらったんです」と八島隆信君。この龍、体育祭の後、すぐに解体してしまつたというから、さすが男子ばかりの理系クラス、いさぎよいではありませんか。(あ、もったいなー)

■和太鼓同好会「浜龍太鼓」

ドンドンカッカツ、ドンカッカツ……。お腹の底にピンピン快く響く音を震わせて、浜龍太鼓の太鼓は今日も叫ぶ。

長浜市神照地域では、昔からオコナイの行事が賑々と受け継がれてきたが、五穀豊穡を願う鐘や太鼓の音は聞かれなくなつてしまつた。その音を取り戻そうと、サンパレスと神照公民館で「太鼓教室」が開かれた。浜龍太鼓は、そこに集つた人々たちによって平成九年一月に結成されたサークル。現在活動中のメンバーは、六、七十歳代の、亀の功、年の功を知り尽くした十四名だ。浜龍という勇ましい名前は、台湾から仕入れた太鼓に龍の彫り物があつたことから付けられた。



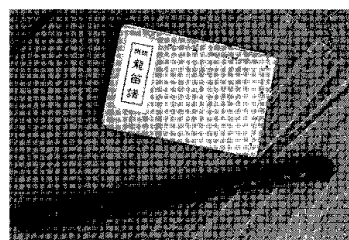
「年寄りやで、一曲覚えるのに一年かかつてしまうんや。覚えるのが早い人も、遅い人もおるけど、みんなで教え合つて、ちよつとずつ昇つていきたいな」と、会長の中川新一さん(78歳)は語る。

高価な和太鼓は一度にはそろわず、最初は醤油の樽での練習だった。「ボケ防止のため」などと謙遜されるが、阪神大震災鎮魂と希望の太鼓、地元イベント、幼稚園や小学校との交流など、一昨年は十七回も出演依頼があつたという。

生き甲斐づくりの活動が、まわりの人にも生き甲斐を与える。気持ちのいい相互作用だ。今年も新人も加わり、さらなる活躍が期待できそうだ。

■龍笛

宮中や社寺で演奏される音楽に雅楽というものがあつた。高月町宇根区では、古くから自治会で雅楽会を結成し、神社の大祭や各種催事に越天楽などを演奏している。



そこで使用される笛には、笙、ヒチリキ、横笛があるが、雅楽では横笛を龍笛と呼んでいる。なぜ龍の笛なのだろう。宇根雅楽会のメンバーである小倉建夫さんにお話を伺つたところ、「籐で巻いて装飾された姿が龍に似ており、その音色も龍の鳴き声を連想させるからでは」との返答。なるほど雅やかな呼称である。

試してみよう
七本鎗のすし味
五臓六腑に
しみわたる香り

清酒

七本鎗
シチホンヤリ

大和屋酒造

滋賀県伊香郡木之本1107
大和屋酒造有限会社
TEL・0749(82)2013
FAX・0749(82)5507